



# JR 日高本線 80年のあゆみ

先にと列車に乗り込み、座席を確保する乗客の姿が、日常的に見られました。

## 高波で列車が運休 代行バス運行

平成27年1月、低気圧に伴う高波の影響で、日高本線のほぼ中間にある厚賀―大狩部間の線路下の盛り土が流出、列車が運休となり、その間、代行バスが運行されてきました。日高本線の復旧に向け、日高管内7町で協議、要望を重ねましたが、日高本線（鶴川―様似間）鉄道事業の廃止が決まり、令和2年10月23日の管内町長会議において、バス転換となることの覚書の締結するに至りました。

## 日高本線 廃線を迎え：

令和3年3月31日19時47分、列車代行バス最終便「静内行き」は、地域住民や関係者、鉄道ファンに見送られるが、定刻どおり様似駅を発車し、その役目を終えました。時間の経過とともに日高本

線の記憶も徐々に遠のいてしまいかもしれませんが、それでも確かにここで暮らしていた人々の足となり、地域全体を支えてくれました。かつてあった日高本線の鉄道風景、子どもから、お年寄りまで、皆に愛され賑わいのあった駅舎周辺の情景は、いつまでも心の中の記憶に刻まれます。



列車代行バスを見送りに多くの人が駅を訪れた

## 列車からバスへ

令和3年4月1日、日高本線に替わる公共交通の軸として全面的にバスへと転換、長距離バス「とまも号」の運行開始のほか、通学生などにとっても利便性が高まるようダイヤが改正されました。日高エリアの公共交通が将来にわたり便利なものとなるよう今後も必要な見直しを行っていく予定です。

令和3年4月1日、JR日高本線（鶴川―様似間）が廃線となり、約80年に及ぶ歴史に幕を閉じました。地域交通や物流を支えてきた鉄道。なくてはならない大きな存在でした。その日高本線の軌跡と様似町との関わりを振り返ります。

## 様似町に鉄道開通

当町に待望の鉄道が開通したのは、昭和12年8月のことでした。日高本線約14.4kmが完成し、苦小牧―様似間が全通したことにより運送の中心は海運から鉄道へと転換していきました。沿線の農林漁業の開発が促進され、えりも岬への観光ルートとしても脚光を浴びました。

町内には、「鶴苦」、「西様似」、「様似」と3つの駅が開業し、旅客の面でも貨物の面でも、まちの発展において大きな役割を担いました。当初の車両は蒸気機関車でしたが、昭和29年には最初のディーゼルカーが町内を走り、蒸気機関車は昭和49年に

町内から姿を消すこととなりました。昭和50年代に入ると、本格的な車社会の到来により利用者も減少しましたが、昭和62年の国鉄民営化以降も、観光や通学・通院をはじめとした住民の足としてさまざまな用途で活用され、親しまれてきました。

## 多くの観光客で賑わった様似駅

日高本線の終着駅、一方で日高路の始発駅でもある様似駅には、観光シーズンになると、列車でやってきた当時「カニ二族」と呼ばれていた若い旅行者を中心に多くの観光客が列をつくり、バスに乗り換えてえりも方面に向かう姿や、お目当ての駅に向かうため我

## 日高本線の歴史

明治 25年	苦小牧駅が北海道炭鉱鉄道として開業する。
明治 26年	北海道庁鉄道部により、日高路への一部調査が開始される。
明治 42年	苦小牧―鶴川間に木材運搬用の専用馬車軌道が敷設される。
明治 44年	動力が馬車から蒸気機関車へ変更。専用鉄道が佐瑠太（富川）まで延伸する。
大正 2年	苦小牧軽便鉄道が一般運輸営業開始。
大正 11年	佐瑠太―浦河間の鉄道建設許可が下りる。
大正 12年	日高拓殖鉄道株式会社が設立される。
大正 13年	日高拓殖鉄道の佐瑠太―厚賀間が開業。門別（日高門別）駅、波恵（豊郷）駅、慶能舞（清島）駅、厚賀駅が開業する。
大正 15年	厚賀―静内間が延伸開業し、節婦駅、高江（新冠）駅、静内駅が開業する。
昭和 2年	苦小牧軽便鉄道（苦小牧―佐瑠太間）、日高拓殖鉄道（佐瑠太―静内間）が国有化され、苦小牧―静内間が日高線となる。
昭和 8年	静内―日高三石間が延伸。東静内駅、春立駅、日高三石駅が開業する。
昭和 10年	日高三石―浦河間が延伸。本桐駅、荻伏駅、浦河駅が開業する。
昭和 12年	日高幌別駅、鶴苦駅、西様似駅、様似駅が開業する。浦河―様似間が延伸開業し、全線開通となる。苦小牧―様似間の所要時間は直通の客貨混合列車で約5時間、1日4往復の運行となった。
昭和 18年	苦小牧―様似間が日高本線に改称。
昭和 34年	札幌―様似間で準急「えりも」が運転を開始する。
昭和 35年	札幌―様似間で準急「日高」が運転を開始する。
昭和 41年	準急「えりも」「日高」が急行に格上げとなる。「日高」が「えりも」に統合される。
昭和 49年	SL さよなら運転が実施される。
昭和 52年	西様似駅、鶴苦駅が無人駅となる。
昭和 57年	浦河沖地震が発生し、静内―様似間が不通となる。静内―様似間の貨物営業が廃止となる。
昭和 61年	急行「えりも」が廃止となる。
昭和 62年	国鉄分割民営化に伴い、JR北海道が全線を承継。様似駅が無人駅となる。
昭和 63年	キハ130形気動車が運転を開始する。
平成 2年	全列車でワンマン運転を開始する。
平成 10年	千歳―様似間（後に札幌―様似間）で臨時快速「優駿浪漫」が運転される。
平成 16年	DMV（デュアル・モード・ビークル）の走行実験を開始する。
平成 27年	1月8日、厚賀―大狩部間で高波により路盤の土砂が流出し、鶴川―様似間が不通となる。
令和 2年	10月23日、JR北海道と沿線7町が令和3年4月1日に鶴川―様似間の廃止に最終合意、覚書を締結する。
令和 3年	4月1日、日高本線（鶴川―様似間 116km）が廃止となる。

様似駅からえりも方面へはバスに乗り換えて移動した



転換機で方向転換するSL機関車。終着駅ならではの設備。

